

中一国語

長文読解入門 第五回 対比

---

講師・・羽場 雅希

◆今日の授業で学ぶこと

- ・対比の関係
- ・さまざまなた対比
- ・おさえておきたい対義語

## ◆ 対比の関係

物事は、何かと比べて説明すると伝わりやすくなる。

(例) 私の点数は72点だった。



平均点が42点だったのに対し、私は72点だった。

## ◆ さまざまな対比

次の空欄らんに当てはまる適切な言葉を書き入れなさい。

(1) サッカーや野球は集団競技である。

それに対して、マラソンやゴルフは

( ) である。

(2) ビルや公園は人工のものである。

それに対して、山や森は ( )

のものである。



おさえておきたい対義語

具体ちゅうしよう ↔ 抽象

全体 ↔ 部分

絶対 ↔ 相对

集団 ↔ 個人

必然ぐうぜん ↔ 偶然

一般いっぱん ↔ 特殊とくしゆ

主観 ↔ 客観

生産 ↔ 消費

自然 ↔ 人工

目的 ↔ 手段

形式 ↔ 内容

権利 ↔ 義務

外的 ↔ 内的

自由 ↔ 束縛そくばく

理性 ↔ 感情

能動 ↔ 受動

肉体 ↔ 精神

自発 ↔ 強制

直接 ↔ 間接

公(的) ↔ 私(的)

## 【第一問】

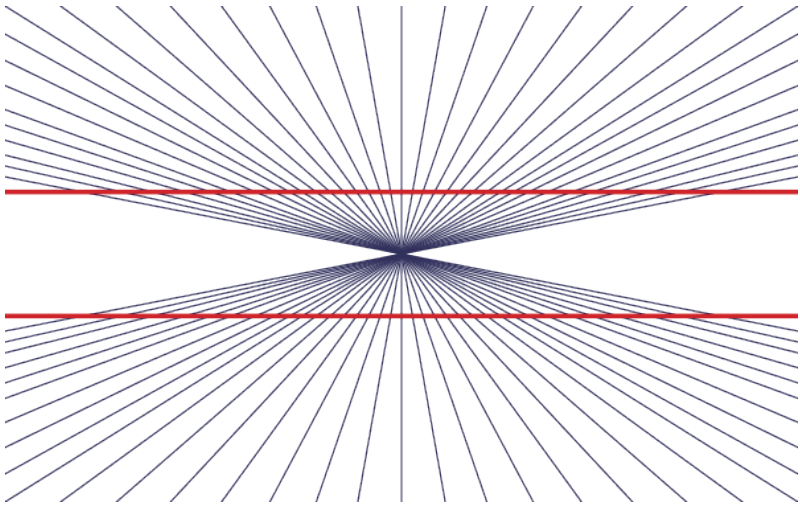
次の空欄にあてはまる適切な文を考えて書きなさい。

(1) えんぴつで書いた字は消しゴムで消すことができる。それに対して、

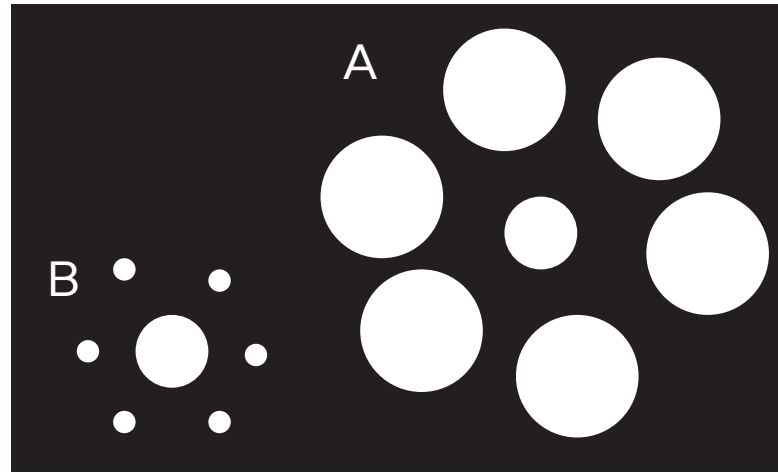
(2) 他人と過去は変えることができない。  
それに対して、

【第二問】

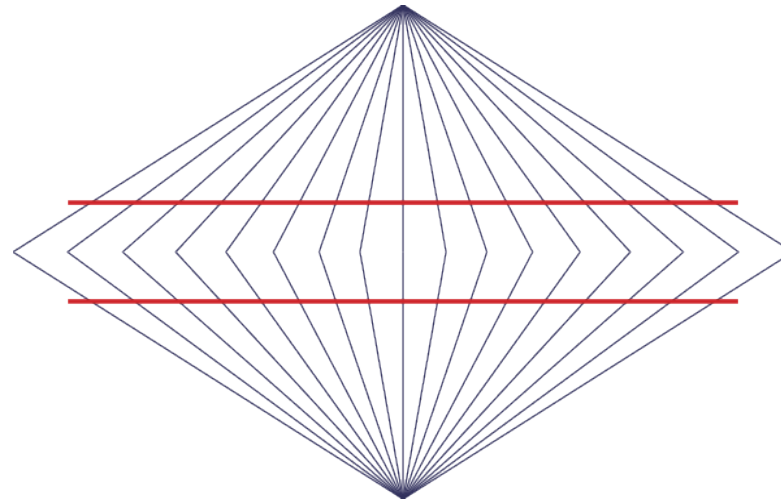
次の図と文章を参考に、あとの問いに答えなさい。



▲図2 平行線がゆがんで見える、ヘリングの錯視



▲図1 中心の図の大きさを比べてみよう



▲図3 図2と逆方向さかにゆがんで見える、ヴントの錯視

ヘリングの錯視 作品名: Hering illusion 作者名: Fibonacci  
URL: [https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Hering\\_illusion.svg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Hering_illusion.svg) CC-BY-SA  
ヴントの講師 作品名: Wundt illusion 作者名: Fibonacci  
URL: [https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Wundt\\_illusion.svg#/media/File:Wundt\\_illusion.svg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Wundt_illusion.svg#/media/File:Wundt_illusion.svg) CC-BY-SA

① ぼくらの目の柔軟さじゅうなんというか、頼りたよなさを、このようにいろいろな錯視さく図を見るにつけ、感じさせられてしまうではないか。① しかし、だからといって、直ちに、人間の目はアテにならないと判断するのは危険だと思う。

② たしかに、機械に測定させれば、たとえば直径5センチの円は、周囲きわみがどんな状況じょうきょうにあっても、常に直径5センチの円である。機械はそのように見ることができ。しかし、これは文字通り機械的な見方である。人間の目では、そうはできないけれど、そもそも人間の目は、そういう判断をする必要を感じていないのかもしれない。直径5センチの円が、大きく見えたり小さく見えたりすることによって、別の価値を生んでいる可能性もある。

③ このことをもっとわかりやすい例でいうと、たとえばぼくらの目はごく自然に映画を楽しむことができる。一瞬間24コマの映像をスムーズにつなげて見ることができ。機械はそのひとコマひとコマを、コマとしてしかとらえることができない。連続した映像としてとらえるなどというウソを、機械は認めることができないのだ。

④ つまりこの例でいうと、人間の目は一瞬間24コマの映像を、細かく分断して見ることはできないけれど、連続した動きを、フィルムから読みとるといふ、もうひとつの価値を生んでいるのである。

⑤ ひとの目の、アテのならなさなが、ここでは大きな武器となっているわけだ。

⑥ ② 錯視さくイコール目への不信という図式だけは、とりあえずごめんこうむりたいとおもう。

（『だまし絵百科』桑原茂夫より）

問…この文章において、筆者の主張は「AではなくむしろB」の形で述べられている。傍線部①と傍線部②に続く文を書くとしたらどうなるか。次の形に合うように書きなさい。

(1)傍線部① ※十字以内で書くこと

しかし、だからといって、直ちに、人間の目はアテにならないと断定するのは危険だ。

むしろ、（ ）  
ことでもあるのではないか。

(2)傍線部② ※五字以内で書くこと

錯視イコール目への不信という図式だけは、とりあえずごめんこうむりたい。

そうではなく、錯視を起こすことは、（ ）  
ことでもあるのだ。